

ラゾーナ川崎プラザ

【キーワード】

〔施設種別〕 ☐ 高齢者施設 ☐ 障がい者施設 ☐ 子ども施設 ☐ 住宅 ☒ 商業施設
〔運営主体〕 ☐ 市区町村 ☒ 法人 ☐ NPO ☐ 個人 ☐ 補助金 ☐ 内閣府 ☐ 国土交通省 ☐ 厚生労働省 ☐
〔建物形式〕 ☐ 1 棟単体型 ☒ 複数棟集合型 ☐ 団地型 ☐ 建物状況 ☐ 新築 ☐ 増築 ☐ 改修 ☒ 一部改修 ☐ 既存
〔対象者〕 ☐ 高齢者 ☐ 障がい者 ☒ 子ども ☒ ファミリー ☒ 多世代



写真1. 外観全体写真

JR 川崎駅西口前の再開発地区に、2006 年に開業した約 330 店舗有する大型商業施設。人工芝でできたルーファ広場は、人と人、人と自然を感じられる空間となっており、休日はイベントが行われたりなど、人々が集う賑わいのある空間となっている。広場を囲うように商業施設が並んでおり、ショッピングだけでなく憩いの場としてまちの中心的なシンボルを担っている。

■施設概要

- ・ 名称：ラゾーナ川崎プラザ
- ・ 所在地：神奈川県川崎市幸区堀川町 72 番 1 号
- ・ 開業日：2006 年（平成 18 年）9 月 28 日
- ・ 土地所有者：株式会社東芝
- ・ 事業者：N R E G 東芝不動産株式会社・三井不動産株式会社
- ・ 施設運営者：三井不動産商業マネジメント株式会社
- ・ 敷地面積：72,013 m²
- ・ 階数：地上 6 階、地下 1 階
- ・ 延床面積：172,303m²
- ・ 店舗面積（貸付面積）：79,294m²
- ・ 駐車場台数：約 2,000 台
- ・ 駐輪場台数：約 3,200 台
- ・ 設計・デザイン：株式会社山下設計、リカルド・ボフィ
ル
- ・ 設計・施工：清水建設株式会社

■コンセプト・名前の由来

「LAZONA」とは、「Lazo（スペイン語で縁、繋がり、絆、結合を表す語）」と「Zona（スペイン語で地域を表す語）」を組合せた造語である。街づくりのコンセプトである「人と人の関係のあり方の再生」、「人と自然の関係のあり方の再生」、「自然な自分に再生」の 3 つの「再生」に込めた、「人と人」、「人と自然」等の「縁・繋がり・絆」を「Lazo」



図1. 立地周辺

（国土地理院から引用）<https://www.gsi.go.jp/>

JR 線 川崎駅直結

京浜急行線 京急川崎駅下車徒歩 7 分



写真2. 外観写真

規模が大きいため写真を撮る角度によって様々な外観が現れる。駅から直結しているためアクセスしやすい。

参考文献

1) ラゾーナ川崎プラザ HP

(<https://mitsui-shopping-park.com/lazona-kawasaki/>)

2021年3月9日参照

2) 「LAZONA」に込められたコンセプト、多様な人々が集いつながる場所・ルーファ広場

(https://erimane.com/hiroba_lazona-kawasaki/)

2021年3月9日参照

3) 国土地理院 (<https://www.gsi.go.jp/>)

2021年3月9日参照

で表現している。さらに、1908年（明治41年）に電球の生産を開始し、100年近くにわたって人々のライフスタイルの発展に寄与する製品・技術を送り出してきたこの土地と社会との関係が、将来も変わらず繋がっていくとの意味合いも併せて表現している。

■フロア構成

フロアは1階～5階まで様々な店舗が並んでいる。1階は主に食品系の店舗が置かれており、2階は川崎駅と直結していて、ラゾーナ川崎プラザのシンボルであるルーファ広場が広がっている。3階から上は、飲食店やファッション、インテリア、雑貨など幅広い店舗が並んでおり、ルーファ広場を囲うようにして、上から広場を見渡せるようになっている。広場からは様々な方向の建物に入ることができ、通路も多いため人の流れを循環させることができる構造となっている。また、5階には子供が遊べる屋内、屋外スペースがあり、映画館もあったりするなど、幅広い世代の人が楽しむことができる。

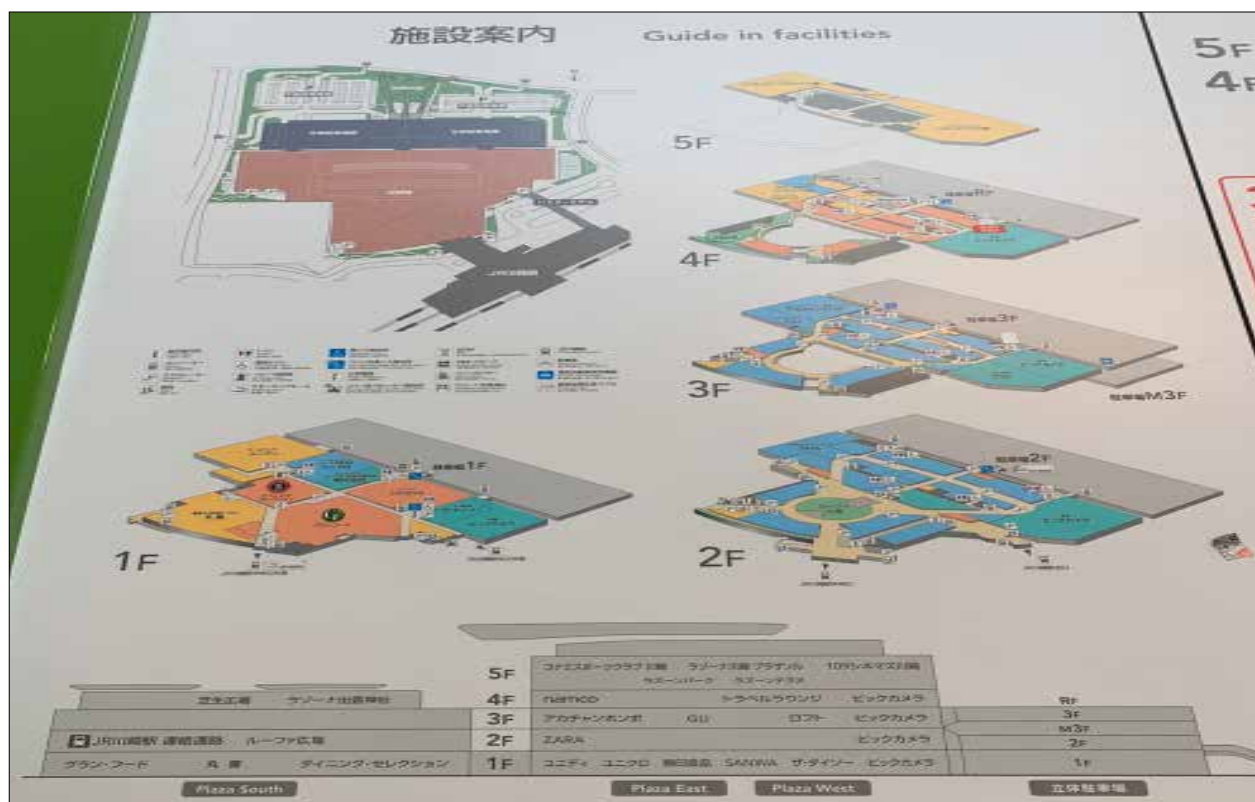


写真3. フロア構成

この建物は広場があることで人の行き来を多くし、商業施設への集客を行っていた。広場を囲うようにフロアが構成され、広場を隠さないように上から見えるように通路を確保している。

■ルーファ広場

ラゾーナ川崎プラザのシンボルであるルーファ広場。改札を出てラゾーナへ向かうと一番最初に通るのがルーファ広場であり、開業当初は駅への広小路として近隣住民の生活動線になっていた。2018年に人工芝設置により、人が集い賑わいを生む空間へと変貌した。ルーファ広場を取り囲む建物も印象的で、「屋根のある街」という建築コンセプトのもと、外装・大屋根の設計はスペイン人建築家、リカルド・ボフィル氏 (Ricardo Bofill Leví) が担当した。ボフィル氏はバルセロナ＝エル・プラット空港などを手掛けた事でも有名である。広場は360°建物に囲まれている“人工空間”でありながら自然が感じられる場となっている。中央部分は人工芝だが、緑視率という意味では大部分が緑の空間であり、広場の周囲には14本の本物の樹木が植えられている。樹木の下には可動式のベンチが、大型スクリーンの下には階段状の座れるスペースがある。どちらも子供が座っても足が届く高さになっており、人工芝に直接座る時とさほど変わらない目線の高さになる。そのため人の存在は感じつつも、歩行者と目線の高さがずれていて歩く人の圧迫感を感じさせないように工夫されている。人工芝と舗装面の段差はほとんどなく、上から俯瞰して広場を見てみると、駅に向かって人の流れができており、人々が滞留するエリアと移動動線が自然に分かれている。広場正面のステージは照明や音響施設を備えた本格的な造りになっており、ライブやトークイベント等に活用されている。基本的には立ち見になるが、ステージ前の人々は人工芝に直接座って鑑賞することができる。また、ルーファ広場をぐるりと取り囲む通路は立ち見席として、また通路に等間隔に設置されたベンチは観覧席として機能している。平常時のベンチはちょっとした休憩場所として機能している。ショッピングのついでにふと立ち止まって広場を見下ろすことができることも、不特定多数の人がイベントの参加者になるきっかけになっている。このように、商業施設でありながらショッピングだけでなく、イベント等や家族のお出かけ先として多様な目的をもつ、様々な人々が集う公園のような広場として、ルーファ広場はまちの中心的存在になっている。”人と人、人と自然の繋がり”を感じることでできる空間として賑わいを生んでいる。



写真4. アクセスのしやすさ

広場へとつながる導線がいくつもあり、人の流れを広場へと繋げることで滞在を促している。



写真5. 自然を感じられる空間

ラゾーナのコンセプトでもある人と自然を感じられる空間とあるように、緑が多く使われている。



写真6. 滞在できる空間

ステージには段差が設けられており、そこでの滞在が多く見られた。また、ベンチが多く設置されていたりなど、滞在できる場所が多くあった。

■現地を見て印象に残ったこと



写真7. 木材を多使用したデザイン

ラゾーナ川崎プラザは、国産木材の使用を積極的に行い、自然保護・循環型社会の形成に貢献する活動を行っており、施設内に木材を使用しているものが多くあった。



写真8. 内観写真

吹抜けを多く使用しており、天井はガラスにしてひかりを取り入れ、空が見えることで開放感を演出している。



写真9. 店舗への導線

導線は中心の広場を囲むように設置されており、導線から広場、広場から店舗が見えることで、お互いに誘発し合い人を集めている。



写真10. キッズスペース

建物の5階部分には子供が遊べる空間が広がっており、近くに授乳室があったりなど、子供連れのお客さんに配慮したスペースになっていた。



写真11. 広場内に設置されているオブジェ

広場内には高さが異なったオブジェクトが設置されており、幅広い世代の人が腰掛として利用できる。また、小さい子供がよじ登って遊んでいる様子が見られた。



写真12. 開放的な空間の演出

駅から直結しており、トンネルのような場所をくぐると広場へとつながり、狭い場所から広い空間へと移り変わり、より開放的な空間を演出できる。